

品川区いじめ対策委員会（第2回）

議事録要旨

1 日時

平成29年1月17日（火）午前9時30分から午前11時30分まで

2 会場

品川区立大崎中学校

3 審議

- (1) 「学校いじめ対策委員会」について
- (2) 学校案内
＜大崎中学校 校長の説明により、大崎中学校の学校案内＞
- (3) 事例報告、意見交換
- (4) いじめ発見のツールについて
- (5) 終わりに

4 出席者

斎藤尚也委員長、池田幹雄委員、岡本淳子委員、新藤こずえ委員

5 発言要旨

(1) 「学校いじめ対策委員会」について

- 大崎中学校では、生徒会によるスマイルプランやスクールバディ等で子どもたち自身にいじめの問題を考えさせたり、自分たちで自分たちの問題を解決させたりするような取り組みをしている。様々な体験を通して子どもたち自身に自分の生き方について考えさせる。
- 朝の校門でのあいさつや、教員による休み時間の見回り、アンケート・面談等で子どもの変化を様々な場面で捉え、いじめの早期発見・対応に取り組んでいる。
- 大崎中学校の取り組みは、大変きめの細かい徹底したものである。朝から下校まで子どもの様子を見守り、初期段階ですべて対応している。また、子どもの情報を教員が詳細に把握していることが、とても大きい利点である。さらに子ども自身の力をつけさせるところから始まっているため、モデルになるような取り組みではないかと考える。
- 子どもの状態を把握するため徹底した取り組みをしているが、子どもたちから見て監視されているという感覚はないようである。ベースに信頼関係があることが大切である。

- 教員が変化に気づくだけでなく、子どもの方から情報が挙がるケースもある。生徒の委員会活動のなかで情報が挙がってきた場合に、担当の教員が聞き、子どもたちに考えさせることもあるのと同時に、教員同士の情報共有、生活指導部会というように組織が広がっていった解決に向かっていくというのが大体のパターンである。
- プライドがあるため、子どもからSOSは出しにくいと考える。言いにくいことは目安箱等で伝えることもある。色々なツールを用意して網にかかりやすくすることも大事である。

(2) 区内学校における事例報告、意見交換

- いじめという事案で挙がってきたが、実際は家族関係に課題がある場合に、そこにどう関与していくか。HEARTSが定期的に面談等を行っていく必要がある。
- 悪い方へとつながっていくようなケースは、複層化しており問題が一つでないケースが多い。
- 昔から抱えている問題が触発され、状況が悪くなり、大きな問題につながる場合がある。問題の全体の構造の見極め、しっかり理解することが大切である。
- 専門家や教員だけで問題を解決するのではなく、地域の力を借りることも大切。保護者同士のネットワークを活用して支援していくことが重要だと考える。

(3) 終わりに

- 今回は目的を大きく二つ設定した。一つ目は管理職や教員の意識が高い学校の様々な取り組みを見ていただいたこと、二つ目はケースの取り組みを紹介したことである。
- 一般的に、いじめと不登校の問題には同じような傾向が見られる。具体的には担任の認識が弱いということや、配慮を要する子への対応が十分でないこと等がある。また、学級の秩序が乱れている場合にいじめが発生している。
- 校種によって傾向が違ってくる。今後はその傾向等について、こちらでも様々な分析を進めていく。